

ブルキナファソ農業・水利省大臣と ブルキナファソ駐日臨時代理大使が学長を表敬訪問

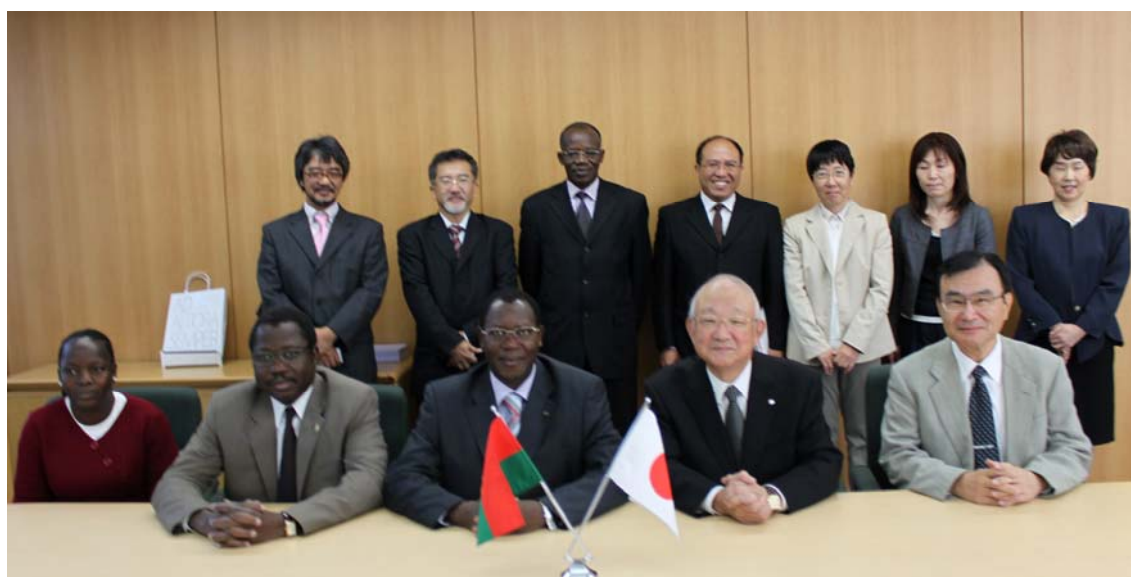
平成23年10月27日(木)、ブルキナファソのローレン・セドゴ農業・水利省大臣とランベール・アレクサンドル ウエドラオゴ ブルキナファソ駐日臨時代理大使が、同省水資源総局長ウセイニ・タノウ氏と同省衛生・汚水・廃棄物総局長デニス・マリー・ソンド氏を伴って、千葉大学を来訪した。一行は独立行政法人国際協力機構(JICA)事業「持続可能な水と衛生システム(北海道大学サスティナビリティ・ウィーク)」の研修員として千葉大学環境リモートセンシングセンターを来訪したもの。

ブルキナファソは西アフリカに位置し、1960年にフランスから独立した。国名のブルキナファソは「清廉潔白な人の国」を意味する。人口は約1,600万人で、就業人口の約9割が農業、牧畜に従事している。

表敬には、徳久理事、高垣副理事、ヨサファット准教授(環境リモートセンシング研究センター)、本郷助教(環境リモートセンシング研究センター)、五味田国際企画課長が同席した。

表敬では齋藤学長の歓迎の挨拶の後、大臣のスピーチが行われた。スピーチの中で大臣が、周辺諸国が資源に恵まれている一方、ブルキナファソは資源が乏しく、国の発展のために日本人の勤勉さや知恵をぜひ学びたい、と述べられたのが印象的だった。続いて、大使からは千葉大学とブルキナファソの交流を全面的にバックアップしていきたいとのコメントがあった。

表敬後、一行は環境リモートセンシング研究センターでGISと衛星画像解析に関する講義を受講した。



前列左から3番目：ローレン・セドゴ農業・水利省大臣
前列左から2番目：ランベール・アレクサンドル ウエドラオゴ駐日臨時代理大使